

家庭エコ診断の成果と課題

一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット
(全国地球温暖化防止活動推進センター)

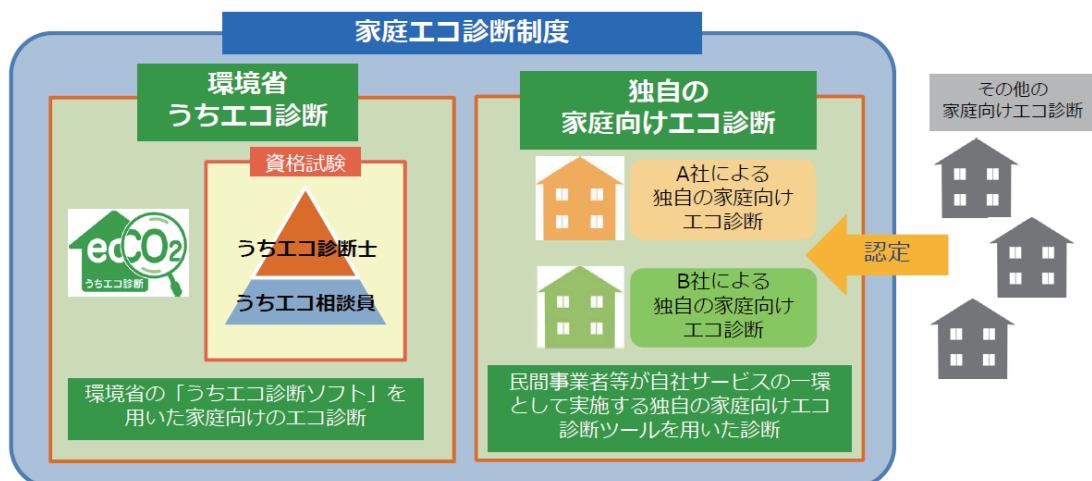
川原 博満



1. 家庭エコ診断制度の位置づけ

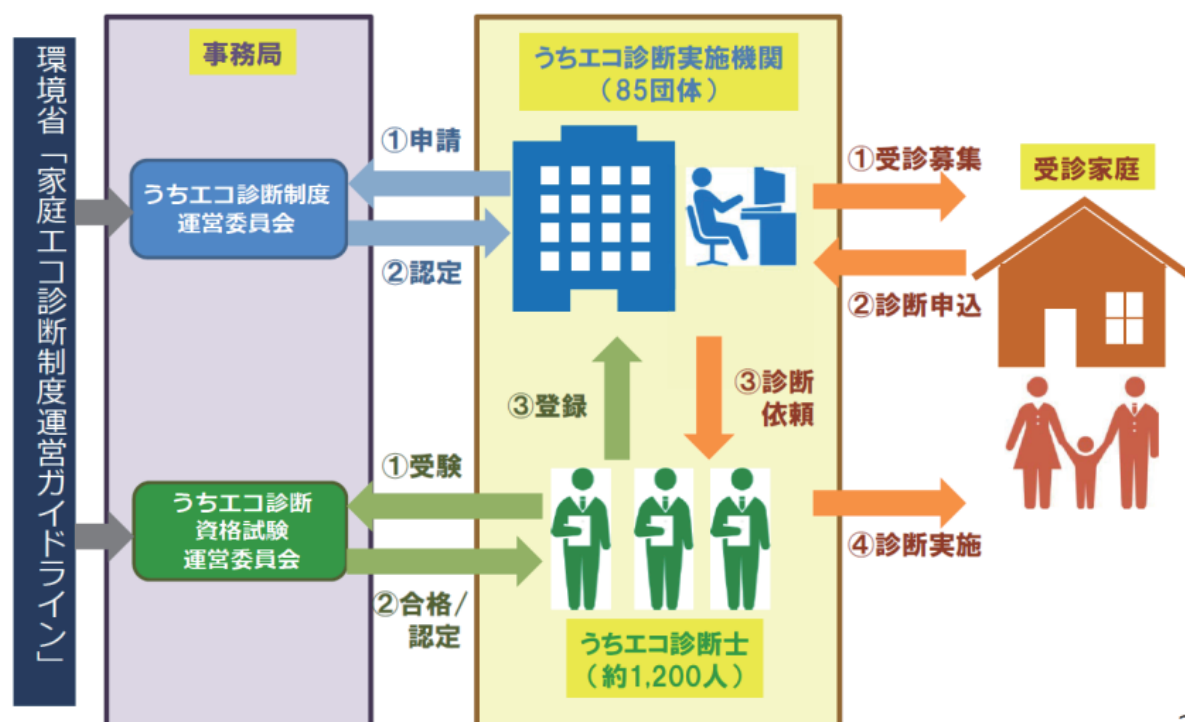
- 平成23年度から3年間、家庭エコ診断推進基盤整備事業（環境省）として整備し、平成26年度より制度として展開中である。
- 平成27年7月17日に地球温暖化対策推進本部より、国連気候変動枠組条約事務局（UNFCCC）に対して「日本の約束草案」が提出され、家庭部門の対策・施策の一つに「家庭エコ診断」が位置付けられた。
- さらに、平成28年5月13日に閣議決定された「地球温暖化対策計画」には、国民運動の展開の一つとして「家庭エコ診断制度の推進」が位置付けられている。

環境省「家庭エコ診断制度運営ガイドライン」



2. うちエコ診断の実施主体における診断開始までの流れ

- うちエコ診断は、基本的には診断実施機関となる団体（各種団体、自治体、民間企業）の事業として実施。事務局は実施環境（診断ソフト、診断士の認定等）を提供している。



3

3. 受診者におけるうちエコ診断の流れ

- 受診者は、診断申し込み後に事前調査票に電気・ガス・ガソリン・灯油の支払い料金や機器等の使用状況（使用時間や温度設定など）を記入して、診断実施機関に送付する。（下図1）
- その後、診断士によるうちエコ診断を受診し、状況に応じた効果的で実行可能な対策の提案を受ける。（下図2）
- 提案された対策を実施したか、事後調査票によって回答する。（下図3）



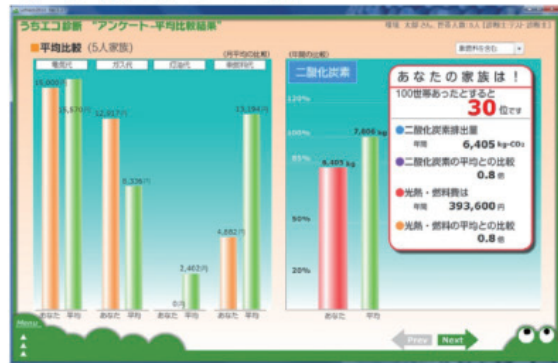
4

4. うちエコ診断ソフトの主な画面

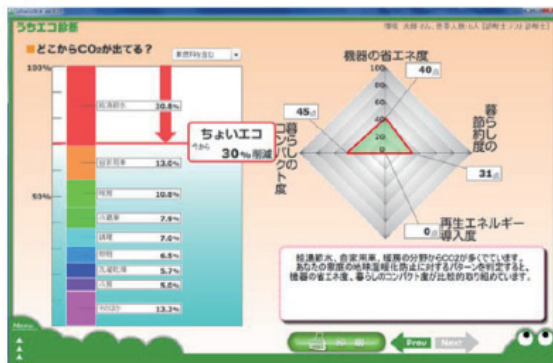
① 診断メニュー



② 平均世帯との比較



③ 分野別の排出割合



④ 対策提案

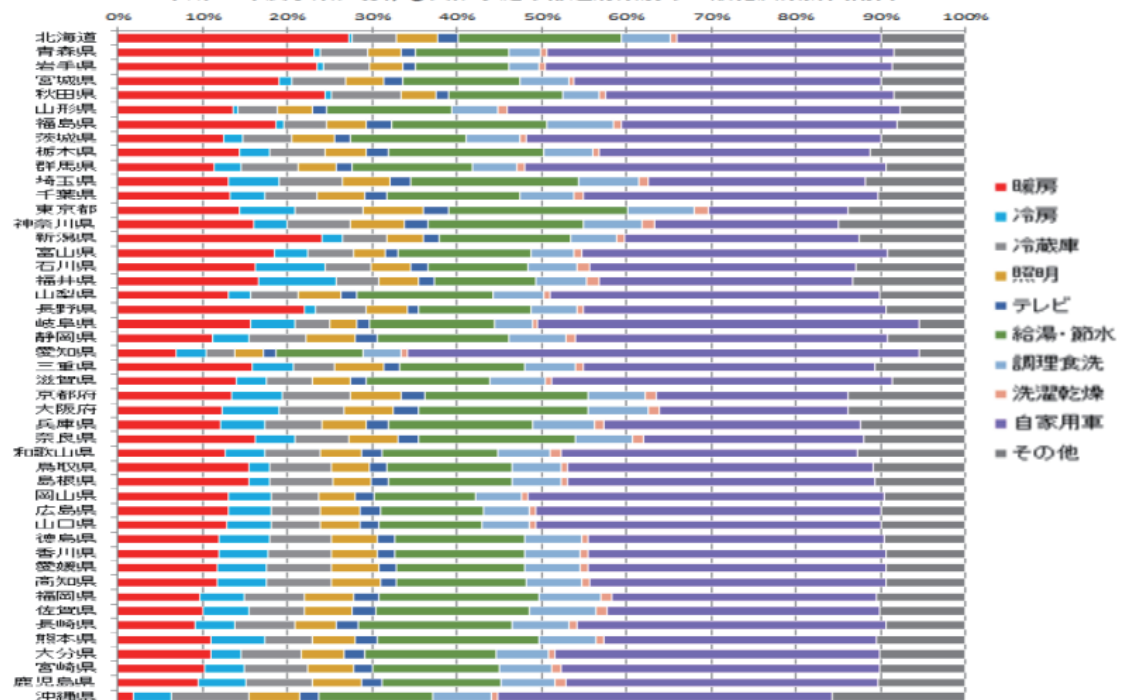


5

5. 診断結果から推計した家庭のCO2排出割合（都道府県別）

- 平成27年度の事後調査結果より算定した、都道府県別の家庭からの二酸化炭素排出割合を示す。暖房(赤)・冷房(水色)、自動車(紫)の分野において地域別の特徴が表れていると推察される。

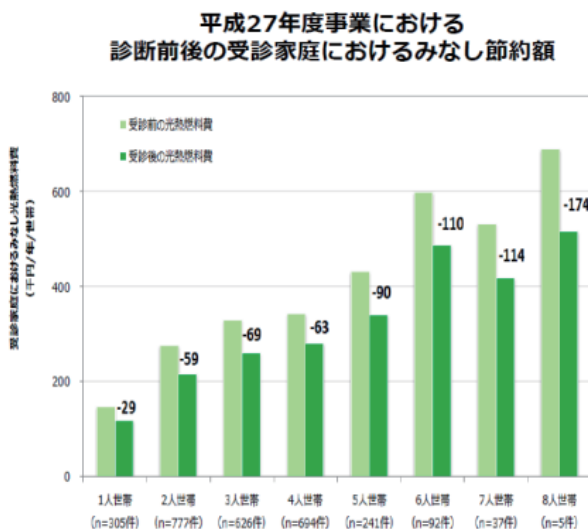
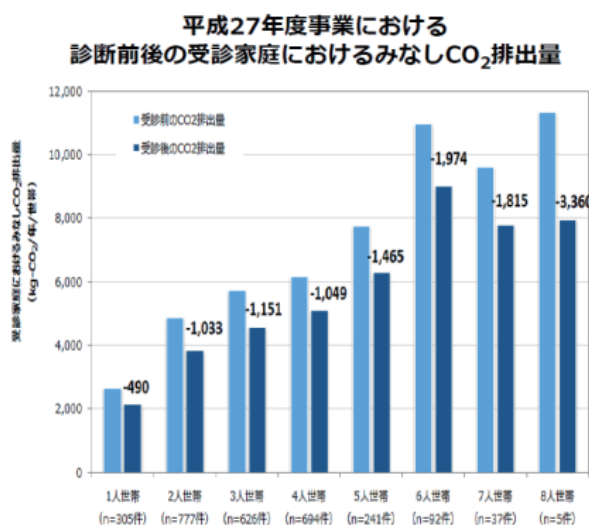
平成27年度事業における受診家庭の都道府県別の二酸化炭素排出割合



6

6. 受診世帯における削減効果

- 平成27年度事業の事後調査結果より、世帯人数別に集計した世帯平均のCO₂排出削減量と節約額の推計結果を示します。CO₂排出削減量で約 1t-CO₂/年と 8千円/年程度の節約が見込まれた（実施した対策を一年間継続すると仮定）。



7

7. 受診世帯における対策実施例

- 気候区分※に選択世帯数の多い対策を取りまとめた。
- 冷暖房に関する対策は各気候区分に応じて対策が選択されることが多い一方で、エコドライブやシャワーヘッド交換等に関する対策は気候区分に関係なく選択されている。

平成27年度事業において気候区分別の受診世帯による選択数が多かった対策メニュー

気候区分Ⅰ

順位	対策分野	対策内容	選択世帯数	実施世帯数	対策実施率
1	自動車	エコドライブに心がける	51	42	82%
2	給湯・節水	節水シャワーヘッドを取り付けて利用する	42	16	38%
3	給湯・節水	シャワーを使う時間を1人1日1分短くする	39	31	79%
4	冷暖房	暖房の設定温度を控えめにする	37	34	92%
5	冷暖房	冷暖房を省エネ型に買い替える	36	13	36%
6	給湯・節水	手元止水型節水シャワーヘッドを設置する	31	21	68%
7	冷暖房	暖房をする時間を1時間短くする	30	24	80%
8	自動車	カーエアコンの温度と風量をこまめに調整する	25	19	76%

気候区分Ⅱ

順位	対策分野	対策内容	選択世帯数	実施世帯数	対策実施率
1	自動車	エコドライブに心がける	14	13	93%
2	給湯・節水	手元止水型節水シャワーヘッドを設置する	12	9	75%
3	冷暖房	暖房をする時間を3割短くする	10	7	70%
4	冷暖房	冷暖房を省エネ型に買い替える	10	2	20%
5	太陽光	太陽光発電装置を設置する	7	0	0%
6	冷暖房	暖房をする時間を1時間短くする	6	3	50%
7	給湯・節水	シャワーの時間を2割短くする	6	5	83%
8	給湯・節水	シャワーを使う時間を1人1日1分短くする	5	5	100%

気候区分Ⅲ

順位	対策分野	対策内容	選択世帯数	実施世帯数	対策実施率
1	自動車	エコドライブに心がける	155	145	94%
2	冷暖房	暖房の設定温度を控えめにする	95	87	92%
3	給湯・節水	シャワーを使う時間を1人1日1分短くする	94	82	87%
4	給湯・節水	手元止水型節水シャワーヘッドを設置する	74	37	50%
5	冷暖房	暖房をする時間を1時間短くする	73	61	84%
6	自動車	車の利用頻度を半分に減らす	64	39	61%
7	自動車	カーエアコンの温度と風量をこまめに調整する	61	60	98%
8	自動車	タイヤの空気圧を適正に保つ	60	51	85%

気候区分Ⅳ

順位	対策分野	対策内容	選択世帯数	実施世帯数	対策実施率
1	自動車	エコドライブに心がける	856	689	80%
2	給湯・節水	節水シャワーヘッドを取り付けて利用する	575	361	63%
3	給湯・節水	シャワーを使う時間を1人1日1分短くする	527	417	79%
4	冷暖房	暖房の設定温度を控えめにする	479	414	86%
5	自動車	カーエアコンの温度と風量をこまめに調整する	466	350	75%
6	給湯・節水	手元止水型節水シャワーヘッドを設置する	450	264	59%
7	給湯・節水	シャワーの時間を2割短くする	346	255	74%
8	給湯・節水	暖房をする時間を1時間短くする	332	275	83%

気候区分Ⅴ

順位	対策分野	対策内容	選択世帯数	実施世帯数	対策実施率
1	自動車	エコドライブに心がける	49	46	94%
2	自動車	カーエアコンの温度と風量をこまめに調整する	28	28	100%
3	自動車	シャワーの時間を3割短くする	23	20	87%
4	自動車	節水シャワーヘッドを取り付けて利用する	21	9	43%
5	冷暖房	車の利用頻度を減らす	20	11	55%
6	給湯・節水	冷暖房を省エネ型に買い替える	15	4	27%
7	給湯・節水	お風呂のお湯を少なめに浴槽を半分にする	15	10	67%
8	給湯・節水	手元止水型節水シャワーヘッドを設置する	15	8	53%

- 気候区分に関係なく共通に選択されている対策
- 寒冷地域に特徴的な対策
- 温暖地域に特徴的な対策
- 赤字 買い替えに関する対策

※一般社団法人建築環境・省エネルギー機構が示す「住宅事業建築主の判断基準」（都道府県別）に基づき地域を区分

8

8. うちエコ診断の課題と対応

- 温暖化対策として、受診家庭でのCO2排出量の削減効果（削減量）を拡大することが必要。
- そのために、受診世帯数の拡大と受診家庭における対策実行の確実性が重要となる。
- 温暖化対策の提供だけでは、受診者獲得に結び付きにくいことから、様々な他の制度との連携が有効であると考えられる。
- さらに他の制度の連携することにより、特に買換え対策に結び付く可能性が高くなり、対策の実行率もより高くなると考えられる。

制度連携の事例

省エネエコポイント×うちエコ診断



＜概要＞

世田谷区の省エネ行動の定着と促進を図る平成26年度「省エネポイント事業」の一つの取組として、うちエコ診断の受診者に対してポイントを付与した。

＜診断件数＞60件

住宅リフォーム×うちエコ診断



＜概要＞

家庭・住宅の省エネに関して、住まいづくりの提案とともに省エネ省CO2対策に配慮した暮らし方の提案を行っている。

住宅用設備特別融資×うちエコ診断



＜概要＞

兵庫県で住宅用太陽光発電、燃料電池、高効率給湯器、うち窓などを設置する場合の特別融資を受ける要件として、うちエコ診断を位置づけて実施している。

お買いもの×うちエコ診断



＜概要＞

イオンモールに来た一般のお客様に対して、うちエコ診断を通じて、暮らし方や家電製品の買い替え、リフォームまで相談を実施している。

9

家庭エコ診断制度に関する情報は、以下のホームページをご覧ください。



<http://www.uchieco-shindan.go.jp/>

10